

# ちくさんスナップショット

平成 27 年 7 月 第 50 号 株式会社富士飼料

## 【掃除は仕事と同じ】

当社は日々環境整備に取り組んでいますが、今回は『掃除』をテーマに取り上げました。当社は、営業、業務、配送、製造、デーリィサポーターと 5 つの柱で取り組んでいますが、どの業務も全て掃除が重要です。「品質の良いエサをお届けする為」に、「品質の良い TMR を製造する為」に、「家畜の健康状態をより良くする為」に掃除をする。当たり前の事なのですが、毎日キレイに維持する事はスタッフ一人一人が常に意識しないと難しい事です。

かの有名な、松下電気（現パナソニック）創業者の松下幸之助さんは、「掃除ひとつできないような人間だったら、何もできない。皆さんは、“そんなことはもう、三つ子の時分から知っている”と思うかもしれないが、ほんとうは掃除を完全にするという事は、一大事業です。」と、残しています。松下幸之助さんは、みずから掃除を実践し、掃除の大切さを伝えたそうです。

私は、デーリィサポーターとして農場内の掃除をする事がありますが、掃除がとても重要と気付かされます。掃除する事で、健康管理はもちろんの事、掃き掃除によりエサのロスが減らし、少しでもお客様の豊かな経営の力になればと思います。

これからも、環境整備に努め、お客様へ安全安心をお届けする為にスタッフ全員で取り組んで参ります。

【東北支店 宮城岩手担当：松浦卓也】

## 【岩手営業所開設します】

7月7日、岩手県金ヶ崎町に「東北支店岩手営業所」をオープン致します。

岩手(営)は岩手県南エリアをカバーし、物流の中継地としても重要な位置付けとなります。岩手の生産者様へお役立ちさせていただき、共に成長していきたいと考えております。

北上金ヶ崎 IC のすぐ近くですので、お近くにお出での際にはお立ち寄りください！

## 【7月価格改定は値下げ】

7月1日に飼料供給価格改定がありました。穀物等の原料事情・為替動向・海上運賃情勢を踏まえ、全畜種平均で 1,800 円の値下げとなりました。各畜種・ステージにより改定巾は異なりますので、詳細は担当営業までお問い合わせください。

【東北支店：二瓶洋一】

## 【養牛】牛のヒートストレスについて

いよいよ気温も高まりヒートストレスが本格化してきました。一般的に上限臨界温度は肉用牛で 26~30℃、乳牛は経産牛で 21 度を超えると乾物摂取量が減少し始めると言われています。ヒートストレスに対し牛は体熱の拡散を涎やパンディング、発汗から促進します。そして乾物摂取量が低下し反芻時間と回数が減少、涼しい時間(夜間)の飼料摂取量が増加し、かため食いや選び食いが起きやすくなります。それに伴いアシドーシスや乳量減少、乳質悪化のリスクが高まります。

そこで出来る基本的な管理点検として【気温管理】【水管理】が重要であるとニッチク薬品工業が発表しておりましたので記載致します。気温管理としては換気扇の設置位置がきちんと外気を取り込み牛舎内の熱を外に放出出来る配置になっているか。水管理として、綺麗で新鮮な水を常に飲める(水量とウォーターカップの清掃)状態を保つことと、牛の強弱から水を摂取できない状況になっていないか(つなぎ直し等)。この 2 点をしっかり見直すことが暑熱対策の大きな第一歩であるとされておりました。是非みなさまの牛舎におかれましても、まず基本的なことから見直し暑い夏を乗り切りましょう。 【宮城県南・福島担当：沼田幸朗】

## 【乳牛】乳用牛全国種付け状況

乳用牛に黒毛和種を種付けした割合(2014年)が3割を超え、過去3番目に高かったと日本家畜人工授精師協会がまとめました。酪農主産地の北海道は2割超で過去最高。コスト上昇に苦しむ酪農家が相場の高い肉用子牛の出荷を増やそうとしたのが原因。半面、乳用子牛の出生数は減るため、同協会は「乳牛の更新サイクルを考えると3年後、生乳減産を招きかねない」と懸念する。人工授精した乳用牛のうち、黒毛和種の精液を付けた割合は、全国平均で33.6%に上る。前年比では3.5ポイント増。北海道は同2.3ポイント増の20.4%。どちらも3年連続で伸びおり、黒毛和種を種付けした全体の頭数は、33万3095頭。人工授精数の8割を占める北海道の黒毛和種交

配数は21万2536頭。割合では、過去最高だった06年の20.1%を上回った。都府県は12万559頭で、98年の51.4%に次いで高い48.4%。地区別では、東北を除く全地区で黒毛和種交配の割合が50%を超えた。最も高かったのは中四国で

60.6%。14年に人工授精して生まれる乳用子牛は、雌なら育成・妊娠期間を経て17年以降に搾乳できるようになるが、その数が減る恐れが高まった。円安による飼料高などが酪農経営を圧迫する中、酪農家が相場の高い肉用子牛を売った利益で当面の経営を維持しようとしているためだ。【6/27日本農業新聞より引用】

7月より、配合飼料は値下げになりますが、輸入粗飼料、単味は値上げとなっております。お客様の経営を少しでも豊に出来るよう弊社も皆様へ少しでも安くお届けできるよう、心掛けてまいります。【東北支店 宮城岩手担当：松浦卓也】

## カラス対策

お客様先でカラス被害を目にします。農作物やサイレーズなどの被害に手を焼いている農家さんも多いようなのでカラス対策を調べてみました。さまざまな対策が報じられています、CDやキラキラテープ（防鳥テープ）は光ること、不規則に動くことによって異常空間を作り出し警戒して近づきません。しかし、カラスは非常に観察力があり、自分が行動する場所に普段どんな物があるのかを常に認識しています。そのうえ、学習能力が高いために、警戒していた物が危険でないとわかると無視するようになります。多くのカラス撃退グッズが最初は効果があるのはこのためです。嫌いな色や臭いということも良く耳にしますが、効果はありません。

そこで、注目されているのがテグスを張る方法です。カラスがとまりそうな場所、侵入経路にテグスを張ります。テグスに翼があたるので飛来できず、警戒して寄りつきません。キラキラ光る効果も併せ持ちかなり効果的とのこと。ポイントは必ず黒や透明の見えづらい色の、なるべく細いものを使う。（黄色はカラスが認識できるためNG）角度によってテグスが見えたり見えなかったりするため慣れることがないようです。カラスは警戒心が強いので見えないものに翼が触れることを嫌がりません。お困りの方は、是非一度お試してみたいでしょうか。

【東北支店 大崎流通センター：佐藤研治】

## 『楽農』

先日ある酪農家さん（Aさん）から伺った話です。Aさんが地域の小学生に酪農について話す機会があったそうです。Aさんが教壇に立って初めに黒板に書いた文字が『落農について』。勿論それを見た子供たちは漢字が間違っていると指摘。そこでAさんが、どんな字を書くのかな？尋ねました。すぐに子供たちは正しい字の『酪農』を書いたそうです。そこからAさんは、同じ『らくのう』でも『落農』になったり、はたまた逆の『楽農』になったりする事を子供達にゆっくり説明していったそうです。

子供達は普通の教科書通りの授業ではなく、まさしく『生きた授業』を受けた事に違いありません。そんな話を伺って鳥肌が立っている自分がいました。と同時に皆様が『楽農』になれるよう、私も日々努力していかなければと痛感させられました。

【宮城県南TMR専任：斎藤勉】

## 【ほっと一息】

先月号で東北支店の新しい仲間（猫ちゃん）が増えました！とご案内しましたが、その母猫の「前田さん」が交通事故で殉職してしまいました。一時行方不明になっていた4匹の仔猫たちは元気な姿で発見。その後ご縁あって3匹の仔猫たちもやってきました、さながら猫屋敷の様相を呈しています・・・仔猫が欲しい方いましたらご一報ください（^^）



ちょっとだけ大きくなりました。走り回っています